

# 2021年度 特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人

ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

## I. 事業の成果

### 1. 組織の運営

実績	成果・課題
<p>会員は、運営会員 22 名、賛同会員 78 名 前年度に比較して、全体で減少 寄付件数は 4 件</p>	<p>会員数は、未納者も加えての数。 新規の会員加入が進んでいない。この間、対面での総会やセミナーができず声かけができなかった。</p>
<p>定例理事会を年 5 回開催、オンライン開催となり出席率は上がった。</p>	
<p>・事務局は 17 名（内四街道市みんなで地域づくりセンター 8 名）おおなみこなみボランティアスタッフ 5 名で運営 ・退職者 3 名、新規採用 5 名 ・コロナ感染防止のため、車通勤、在宅での業務も可能としました。</p>	<p>スタッフ 1 名を募集中であるが、未採用。これまでハローワーク経由で 3 名面接したが条件に合わなかった。</p>
<p>認定 NPO 法人の更新、認定基準を相対値評価に変更して認定された。認定期間：2022/2/22～2027/2/21</p>	<p>認定のための提出書類等の整備に時間を費やした。</p>

### 2. 相談事業・NPOの支援事業

#### ①相談事業

実績	成果・課題
<p>事務所での相談は 20 件、四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談は 71 件、年間で 91 件の相談件数</p>	<p>電話、メール等での軽微な相談の記録が残せていない。</p>

#### ②講座事業

実績	成果・課題
<p>千葉県市民活動団体マネジメント事業を受託実施 6 回の講座を開催。団体の基盤強化、運営力向上につながる内容で、外部講師を依頼し専門性を持った内容で開催。受講者数延べ 159 名。講座満足度で満足との回答は 89.2%。</p>	<p>可能な講座で、講座後にオンデマンド配信を実施。当日受講できない人や振り返り確認をしたい人にとっては、有用と思われる。ハイブリッドでの講座開催は会計講座のみとなり、リアルの交流が持てない状況が続いている。</p>
<p>ちばし地域づくり大学校 令和 3 年度地域人材育成事業として受託、実施。ステップアップコース 18 名（定員 30 名）、基礎コース 3 クラス 50 名（定員 60 名）で実施。全クラス 12 回の講座を開催。基礎コースでは、地域の活動団体でのボランティア体験プログラムも組み込んで、地域づくりの人材育成につながった。</p>	<p>コロナ禍での受講生確保が難しく、定員に満たない状況での実施となった。受講生の満足度は高く、地域づくり人材の確保につながったと確信できる。</p>

#### ③講師派遣

実績	成果・課題
<p>NPO と行政との協働や団体のマネジメント、市民の地域づくり活動への参加等についての講座の企画、講師を派遣 ・千葉市緑区、千葉市美浜区、千葉市中央区地域活性化支援事業助成対象団体研修（各 1 回）</p>	<p>行政との連携・協働の一つとなっている。 前年度は講座やセミナー等が中止となっていたが再開し、講師依頼があった。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティカレッジ佐倉 1年、2年</li> <li>・船橋市会員確保プロジェクト 2回(オンライン開催)</li> <li>・とみさと協働塾 4回</li> </ul>	
--	--

### 3. 地域づくりのコーディネート事業

#### ①四街道市みんなで地域づくりセンターの運営（地域づくりコーディネーター業務委託事業）

実績	成果・課題
<p>オープン日 220日、来所者数 1,666人※他に大きなテーブル 530人、ユニバーサル農業フェスタ（来場者・出展者等）1700人。新着情報 408件、相談件数 71件</p>	<p>「新型コロナ」感染拡大予防から、8月～9月緊急事態宣言期間で、開館時間は変則、講座等を延期して実施。</p>
<p>・地域づくりサロン みんなのコト（1）みんなで災害支援を考えよう～ 障害のある人の支援① 「障害のある人の支援に必要なこと」視覚障害者総合支援センターちば、ワークショップ四街道 36名参加 障害のある人の支援②「福祉避難所って？」講演「福祉避難所のリアル 飯田大輔さん（福祉楽団）52名参加</p>	<p>災害時の障害のある人の支援について、福祉避難所受入れの事例などから学んだ。 しかし、市内の福祉避難所等の情報が少ないので知らせていくこと、障害のある人の支援について地域での理解と支援の輪づくりを進めていくことが必要である。</p>
<p>・地域づくりサロン みんなのコト（2）認知症のコト ①学習会「認知症を知ろう」認知症の基礎知識、認知症の方を介護する家族から、専門機関からアドバイス 21名参加 ②講演会「認知症の人をサポートするには」和田行男さん（一社）「注文をまちがえる料理店」代表理事 21名参加 ③「和田さん講演会 振り返りの会・おしゃべり会」オンライン 8名参加</p>	<p>①家族から貴重な話を聴き、自分に何ができるのか考えるきっかけとなった。②認知症ケアの第一人者の話から、ご近所に普段から関心を持ち挨拶することなど、普通の生活を送ることの大切さが理解できた。③地域包括支援センター等とのつながりができ、今後、連携を具体的に進めていく。</p>
<p>・地域づくりサロン みんなのコト（3）子どもたちのコト 学習会「みんなが笑顔のまち子ども条例」を知ろう 9名参加</p>	<p>市の子ども条例を「知る」ことはできた。活用して「子どもの権利」をどう実現するのか、市民、市、学校の連携が必要である。</p>
<p>・「子どもサポートプロジェクト」 中高生のオープンスペース「RAKU まある」4月～3月オープン（9月はコロナ対応で中止） ミーティング年4回 地域の子どもの様子や団体の活動状況 制服リユースの活動 ミーティングでの提案から賛同者が集まり回収の活動を始めた（実施団体 よつかいどう制服リユース）</p>	<p>コロナの影響で、子ども支援の活動が停滞気味であった。 子ども支援の情報交換を進め、活動を活性化することが課題である。</p>
<p>・第9回子ども支援団体交流会・円卓会議 「コロナ禍での子ども達、乳幼児親子の様子」教育委員会指導課長 飯村典秀さん、保健センター保健師 田中茉莉さん 子どもアンケート報告 22名参加</p>	<p>コロナ禍での子どもたちの状況や地域に求められることが分かった。参加者は他の団体と交流を深めることができ、新たなつながりが増えた。</p>
<p>・子ども見守りサポーター養成講座「北欧のとりにくみに学ぶ～コドモ×オトナ×対話でつくる新しい社会～」佐藤裕紀さん（新潟医療福祉大学講師）オンライン ※市外・県外も含め、子どもの居場所や学童、不登校支援、福祉や教育に関わる人など多方面から 28名参加 ・「北欧のとりにくみに学ぶ」アフタートークオンライン 14名</p>	<p>社会的包摂をキーワードに、北欧の取り組みを学び、日本での子ども支援について意見交換することができた。 この視点を今後の子ども支援を考えるうえで活かしていきたい。</p>
<p>・第3回「みんなで災害支援ネットワーク」学習会 「常総水害に学ぶ災害支援のあり方」講演 横田 能洋さん（た</p>	<p>より具体的な支援の方法が見え、地域の人と人とのつながりの重要性への理</p>

すけあいセンター「JUNTOS」代表) 30 名 ワークショップ「支援のカタチ」「つながり」について	解がさらに深まった。 災害支援ネットワーク名簿 36 団体・人、LINE オープンチャット登録 23 人
・誰でも参加できるアートでまちづくり 第 2 回 ワークショップ「まちにとけこむアート活動～アクションプランを考える」14 名参加	昨年の第 1 回以降、参加団体関連でアートイベントや展示等が開かれ、まちにアートが広がっている様子が見られる。
・講座「福祉」×「ものづくり」×「地域づくり」地域とつながるものづくり 商品の価値を伝えるデザイナー講師 山本友美さん(社福) いぶき福祉会ブランドマネージャー 10 名参加	「大きなテーブル」等で、福祉団体の商品やレイアウトに工夫が見られた。いぶき×はちみつのコラボ商品が生まれた。
・福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル 共催 四街道市地域振興財団 協力 障害者支援課 参加 14 団体(福祉 9、協賛 5) 参加 530 人、売上 42 万円	コロナ対策、屋外・飲食なしで 1 年ぶりに開催。出展者同士や地域の人との交流でき、今後の活動にもつながった。
・「ちばユニバーサル農業フェスタ 2021 in 四街道」の開催 主催 実行委 協力 みんなで地域づくりセンター、四街道市政策推進課、自治振興課、産業振興課、地域振興財団、千葉県障害者就労事業振興センター	昨年に続き「新型コロナ」対策をした上で開催。団体同士や来場者と交流する場が作れた。
・助成金活用セミナー「地域に活動をつくりだす」オンライン併用(※事前オンライン講習会 1 名参加) ①助成金を活用して、地域の課題解決につながった事例報告「キッチンカーで GO」休眠預金、「旭ヶ丘子ども食堂」コラボ四街道 28 名参加 ②一歩踏み出すために一事業計画をたてる 4 団体 9 名参加 ③プレプレゼン(コラボ四街道プレゼン練習会) 1 団体 2 回(6 名、7 名参加)	コロナ感染対策で開催日を延期しオンラインを併用して開催。「コラボ四街道」制度や民間助成金の情報を学ぶことができた。 今後の課題として、これまでセンターを利用したことのない人で、地域課題の解決を考えている人達にどのように伝え参加を促すかを考える必要がある。
コラボ四街道採択団体交流会と決算書の書き方についての説明会 11 名参加	コラボ四街道の決算書の書き方などを学び参加者の交流ができた。(4 団体参加)
・情報誌「みんな」年 4 回発行 2000 部×2、4500 部×2 ホームページ、ブログ 20 件/年、Facebook 3 月末いいね 804、投稿数 134 件/年、団体情報 76 団体、「みんなで地域づくり写真展」そごう千葉店、オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションへの活用	市内の地域づくりの活動やセンター事業の情報発信ができた。次年度は、よりタイムリーで役立つサイトを目指しホームページを改修予定。

## ②福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業

実績	成果・課題
千葉県内の生活情報や支援情報を掲載した被災者向け情報紙「縁 joy」を作成、被災元自治体の協力を得て、県内に避難している被災者世帯に送付(隔月 2000 部)	掲載内容の充実をはかることが課題
被災者支援情報交換会を 6/17、1/26 に開催	情報共有ができた。
県内の支援団体等がメンバーとする実行委員会により、イベント「縁 joy・東北 2021」を 11/2~5 に千葉市きぼ一で開催。「綿毛にのって」「福島記憶」の写真展示等を実施。 11/3(水)には講演、歌唱、箏の演奏会 のべ 400 名参加。	「新型コロナ」対応で開催し、展示等を通して、被災者支援、被災者間交流がはかれた。 震災から 10 年を経て、避難者の状況、ニーズにも変化。目的、内容の再確認が必要。

生花体験交流会 「復興応援 つなげよう花の心」実行委員会の協力を得て、開催した。参加者 20 名(うち当事者 10 名)	参加者の皆さんから喜びの声をいただきましたので、来年度も企画したい。
---	------------------------------------

③福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業（福島県県外避難者相談センターちば開設）

実績	成果・課題
電話相談、対面相談を実施、電話による相談件数 197 件	同じ方からの相談が多い
ミニ交流会 成田市 避難者 5 名	避難者同士会話が盛り上がりました。また、交流の機会を企画してほしいとの声が上がった。
そごう千葉店地下ギャラリーにて、「忘れない東日本大震災—あれから 11 年」と題して、3/8～3/14 に、パネル展示を行った。	一般の方に関心を持ってもらう良い機会となった。
千葉県に避難されている方への暮らしの状況・支援の必要性などを把握するためアンケート調査を実施した。被災元自治体の協力を得て、県内に避難している被災者世帯に返信用ハガキと一緒に郵送した。(1000 部)	避難者の連絡先や状況把握が難しい状況が続いている。回答内容に沿って、必要な支援につなげていく。

④福島県避難者住宅確保・移転サポート業務

実績	成果・課題
電話相談 98 件（いずれも延べ数） 訪問 2 件	複合的な課題を抱えた方からの相談が多い。

⑤多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業

実績	成果・課題
開設から 8 年が経過、「コロナ」の感染拡大予防に配慮しながら継続オープン。	リピーターが増え、場所としての機能が定着した。一方で、来所者の広がりを作っていくことが必要。
健康貯筋体操、アイチ体操、おとなのための英会話講座を継続開催。	ボランティア講師の力が大きい。
「編み物サークル」「折り紙講座」等、主体的に活動するグループが増えた。	
「みんなでランチ」は「新型コロナ」感染拡大予防により中止。フードパントリーや「青空市」（12 月）を開催。生活クラブ虹の街から「子ども食堂」運営のための助成金 3.9 万円の助成を充当。	開催形態を工夫しながら、交流・支援の場を設定できた。
「ロボットプログラミング」講座の会場等、スペース貸しにより運営費の確保ができた。	運営費充当ができた。

⑥千葉県ボランティア参加促進事業「ちばプロボノチャレンジ 2021」

実績	成果・課題
県事業として、県内支援対象団体とボランティア希望者をそれぞれ募り、5 団体と 20 名のボランティア参加者のマッチング、オリエンテーションを行った。 マッチング後の各プロボノチームの伴走支援は、自主事業として行った。年度をまたぐ約 3 カ月間の支援期間で、一定の課題解決をはかれるよう事務局としてサポートした。 <支援対象団体> NPO 法人 せっけんの街、NPO 法人はあもにい、認定 NPO 法人 ほっとすぺーす・つき、認定 NPO 法人 行徳自然	プロボノへの理解の促進と人材育成ができたと同時に、情報発信やマーケティングなどの支援を行い、支援対象団体の基盤強化の一助となった。5 団体全てから、支援を受けて「とてもよかった」、「また受けてみたい」の完了後アンケート回答を得た。

ほごくらぶ、船橋市援農クラブの5団体	
5/11に5チームとも完了し、「プロボノ活動報告会」を6/11にオンラインで開催予定。活動報告を一般公開し、ボランティア参加者同士の振り返りを行う。	プロボノワーカー間で成果と課題の共有をするほか、一般公開することで、プロボノへの理解促進につなげる。

⑦千葉南部災害支援センターおよびCVOAD被災地支援活動

実績	成果・課題
千葉南部災害支援センターの活動・事業をもとに、災害支援ネットワークちば（CVOAD）を6月に設立。千葉南部災害支援センターの活動とあわせて、房総半島台風の被災者、被災地支援と次の災害への備えを進めた。CVOADとして、世話人会が中心になり、交流会や学習会を3ヶ月に1回程度開催した。	組織体制や事業の拡充を進めていくためにも専任の事務局配置が必要と思われる。

⑧生活クラブ安心システム地域づくり（コミュニティデザイン）事業

実績	成果・課題
・2020/9月～2021/8月まで計画していた風の村八街東吉田地区での事業は都合により中止となった。	・コロナ禍もあり、施設側との意見調整が不足していた。
・2021/8月～2023/9月の期間で、風の村さくらがある佐倉市内郷地区で機関、組織、地域のキーマンにヒアリング10件。特に宮前地区は自治会、地区社協の活動が活発にされている。子ども、子育て支援の分野の住民から話を聞き、ワークショップを企画しながら継続する。	・この地区は毎朝8時から中央公園で30名がラジオ体操をしている。この地域でさらに何が課題なのか、ニーズは何かを探り、新しい取組みを生み出す。

⑨浪江町こころ通信取材業務

実績	成果・課題
2011年9月～福島県浪江町から関東圏に避難している町民や浪江町に戻った町民への取材協力を全国のいくつかの中間支援組織の連携で継続。2021年度にて、事業としては終了した。	町民への直接取材を通して震災時の状況やその後の暮らし、思いを確認、発信することができた。一方で避難者支援、被災地復興施策に結びつけることができなかった。

⑩SAVEJAPAN プロジェクト事業

実績	成果・課題
<p>損保ジャパン、日本NPOセンター、全国の環境保全団体、中間支援団体が協働で「みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境」を目的に実施。千葉県では、NPO法人ちば環境情報センターと協働して「千葉市内に残された谷津田の命の賑わいをつながり」をテーマに実施。NPOクラブは広報支援、専用サイトでの情報発信を担っている。</p> <p>（期間：2021/10月～2022/9月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2/26 キックオフフォーラム「生物多様性ってなあに」オンライン併用開催、50人参加。講演会、事例報告3団体。</li> <li>・他に谷津田の観察会を毎月実施、外来生物（アライグマ、イノシシ、ウシガエル等）チェックと駆除を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・損保ジャパン千葉支店の研修会場を借り、キックオフフォーラムを開催した。</li> <li>・谷津田の観察会など野外活動も停滞するなか、感染対策を徹底したうえで継続開催し、参加者は増えている。</li> <li>・始めて関心を持って参加した方、子どもの参加もあり、SDGsの観点からも継続していくことが必要だ。</li> </ul>

⑪全国ボランティア推進団体会議「民ボラ」開催について

実績	成果・課題
全国ボランティア推進団体会議を7/3、7/4大阪で開催。オンライン（Zoom）での開催となったが、全国の中間支援組織とともに、企画、運営を担った。2022年度は5/28、5/29東京で開催予定。	全国の中間支援組織メンバーとの連携が企画の運営・実施を通して深められるが、県内での活動に転換できない。

#### 4. 広報事業

実績	成果・課題
ニュースレター「つぎの一步くん」73号、74号、75号を毎回800部発行。会員、県内外の市民活動センター・中間支援団体等に配布、配架依頼。	団体の新しい取り組みや相談事業についてなど、団体の活動をコロナ禍でのNPOの活動状況とともに伝えられた。
メールマガジン「通信・一步くん」を会員、講座受講者などに適時配信。	講座の案内、補助金の活用等、タイムリーな内容での情報提供ができた。チラシ配布の機会が減り、メールでの情報提供がより重要となっている。
団体ホームページ、団体ブログ「NPOクラブの愉快的仲間たち」「縁joy東北～エンジョイ東北」、Facebook ページ（フォロワー 477）、Twitter ページ（フォロワー 536）で団体情報を適時更新。 ちばし地域づくり大学校、SAVE JAPAN プロジェクトのホームページ、おおなみこなみ Facebook ページで事業の情報を更新。	ちばし地域づくり大学校のホームページの新設により、一定の受講生の応募につながった。各事業ページでの更新と、団体ページやSNSと連動し、適時、情報発信ができた。
千葉日報社の千葉の情報ポータルサイト「ちばとび！チャンネル」に「CHIBAKARA～ちばからチャンネル」（フォロワー 1532）を適時更新。	フォロワー数を伸ばしており、地域活動への関心を広げ、プロボノ事業など担い手の掘り起こしに一定つながった。

#### 5. 他団体との連携・協力事業

##### ①NPO法人地域創造ネットワークちばの事務局業務

実績	成果・課題
ユニバーサル農業で生産される農産物や加工品の販売促進を目的に、生活クラブ・スピリッツと提携、カタログに掲載、受注の取り次ぎを行った。	・笹川なずな工房のいちじくジャムをカタログ発行度に受注している。 15個×4ケース/年
11/27(土)「第11回ちばユニバーサル農業フェスタ」を、四街道市文化センター前広場にて開催。事務局を担当。 出展 28 団体/24 ブース（四街道近隣の農業、福祉事業者）、来場者 1,471 名、売上 1,083,480 円、出展団体スタッフ 170 名、寄附 41,100 円。	コロナ禍のため小規模開催としているが売上、来場者とも増えている。
第3回つながる経済フォーラムをオンライン開催、56名参加（市民、事業者・企業、NPO、行政、関係機関）した。世話人団体として協力した。 「F・E・C・W・Hの視点からつながる経済を考える」	

##### ②その他の組織、団体との連携

実績	成果と課題
公益財団法人ちばのWA地域づくり基金の役員として、理事ミーティング、定例理事会に出席し、寄付募集、助成審査会等に携わった。「子どもの今と未来を支える基金」「2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金」「事業指定プログラム」「休眠預金等活用助成事業」、日本財団「子ども第3の居場所」事業等を通して、コミュニティ財団としての機能、役割が拡充できた。	代表理事が理事長に就任しているので利益相反の原則から、NPO クラブとして助成申請ができず、助成事業公募の広報協力をしている。
生活クラブ千葉グループ協議会に参加し、年4回開催される役員会、運営委員会に出席、「生活クラブ安心システム」「街の縁側」「子ども安心システム」に協力した。また、ちば社会連帯経済研究所が実施する講演会、機関紙発行に協力した。	グループ内の活動に留まりがちであり、地域に向けた情報発信が課題。

<p>千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議に参加、県内の支援組織、市行政担当課と意見交換、情報交換をした。研修会にも参加した。</p>	
<p>千葉県社会福祉協議会や県内自治体等設置の委員会や審査会に参画、就任した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千葉市緑区、中央区補助金審査アドバイザー（鍋嶋）</li> <li>・ 印西市まちづくりファンド選考委員会（鍋嶋）</li> <li>・ 松戸市協働のまちづくり協議会（牧野）</li> <li>・ 習志野市協働推進委員会（牧野）</li> <li>・ 大網白里市住民協働事業審査会（勝又）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO 法人千葉県障害者就労事業振興センター監事（勝又）</li> <li>・ NPO 法人ほっとハート監事（鍋嶋）</li> <li>・ 生活クラブ生協千葉監事（鍋嶋）</li> <li>・ 公益財団法人ちばのWA 地域づくり基金理事長（牧野）</li> </ul>	

## II. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
市民活動・市民事業に関する情報収集及び提供事業	【広報事業】 ・ニューズレター「つぎの一步くん」の発行 ・メールマガジン「通信・一步くん」の配信 ・団体ホームページ、ブログ、Facebook 等での情報発信	年 4 回 毎月 2 回 随時	当事務所 当事務所 当事務所	2 名 1 名 2 名	会員 100 名 他多数 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 会員 100 名および配信希望者 150 名 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体
市民活動・市民事業に関する講座事業	【講座事業】 ・千葉県市民活動団体マネジメント事業 ・ちばし地域づくり大学校	10 月～ 2 月 9 月～2 月	千葉市 船橋市 千葉市	6 名 6 名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 延べ 159 名の参加 千葉市および近隣市在住の市民一般 68 名
市民活動・市民事業を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言または援助事業	【相談事業】 ・事務所での相談対応 ・四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談 【四街道市みんなで地域づくりセンターの運営】  【千葉県ボランティア参加促進事業「ちばプロボノチャレンジ 2021」】  【SAVEJAPAN プロジェクト事業】  【ちばNPO情報館】  【NPO 法人地域創造ネットワークちばの事務局業務】  【風の村ファームの取組み】  【自治体、他団体との連携・協力業務】 委員会等にNPOの立場で関わるとともに、講座等の講師を担った。	通年 通年 通年 通年 10 月～3 月 通年 通年 通年	当事務所 四街道市 四街道市 千葉県内 千葉市内 千葉県内 千葉県内 千葉県内	6 名 8 名 8 名 6 名 2 名 1 名 2 名 1 名	市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 相談件数 20 件 市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 相談件数 71 件 市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 入館者総数 3,918 名 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 5 団体、20 名 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 1 団体、50 名 市民活動・市民事業を行う団体 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 「ユニバーサル農業フェスタ」来場 1,471 名 市民一般  ・千葉県、四街道市、千葉市、大網白里市、 松戸市、印西市、習志野市 ・千葉県社会福祉協議会 ・中間支援組織 ・中央ろうきん
被災地・被災者支援事業	【福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業】  【福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業】  【福島県避難者住宅確保・移転サポート業務】  【千葉南部災害支援センターおよび CVOAD 事業】	通年 通年 通年 通年	千葉県内 千葉県内 千葉県内 千葉県内	3 名 3 名 3 名 2 名	東日本大震災により千葉県内に避難している被災者、支援を行う団体 東日本大震災により千葉県内に避難している被災者、支援を行う団体 東日本大震災により千葉県内に避難している被災者 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体
まちづくり・地域づくり事業	【多様な人々をつなぎ活かす交流拠点事業】 【生活クラブ安心システム地域づくり】(コミュニティデザイン)	通年 通年	千葉県内 八街市、佐倉市	6 名 2 名	市民一般 来場者数 約 1,000 名 市民一般、市民活動・市民事業を行う団体